

生物多様性を高めるための 森林管理のあり方

林野庁森林利用課
森林環境保全班
牧田 朋子

0

目次

- 1) 森林と生物多様性をめぐる背景
- 2) 森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針
(参考) 民間企業のTNFD情報開示
- 3) まとめ

1

森林と生物多様性をめぐる背景

2

生物多様性とは

生物多様性とは、様々な生態系が存在し、生物の種間・種内に様々な差異が存在すること
(生物多様性基本法、平成20年6月6日法律第58号)

生物多様性には、生態系、種、遺伝子の多様性という3つのレベルが存在

生態系の多様性

森林、農地、河川など、様々なタイプの生態系が地域の気候や土壌などの固有環境に応じて形成していること。必ずしも境界が明確ではなく、生物や物質循環を通じて相互に関係。

参考: 森林等67.0%、農地11.6%、宅地・道路9.0%、水面・河川・水路3.6%、その他8.8%
(データ元: 国交省「国土利用区分別面積」令和2年)

種の多様性

ある地域内に多様な動植物や菌類、バクテリアなどが生息・生育していること。
日本の森林には、約7500種の陸上植物が生育、うち約2700種は日本固有の種。
(国立博物館叢書「日本の固有植物」、2011)

遺伝子の多様性

同じ種であっても、個体や個体群の間に遺伝子レベルで違いがあること。

秋田県仁別天然スギ* 屋久島花ノ江河天然スギ*
*出典: <https://www.flpt.maff.go.jp/pubs/seikansenbu/2004/documents/p12-11.pdf>

3

2

生態系サービスについて

生態系サービスとは、生物多様性を基盤とする生態系から得ることのできる「恵み」

4つの生態系サービス

- 供給サービス：食料や木材、水等を供給等
- 調整サービス：気候の調節や自然灾害の防止、水源涵養、病虫害制御等
- 文化的サービス：精神的な価値やレクリエーションの場の提供等
- 基盤サービス：土壤形成や光合成による酸素供給等

生物多様性が損なわれれば、生態系サービスのレベルは低下

森林・林業分野においては、森林の有する多面的機能と同義

4

自然消失による経済リスクの拡大

- 世界GDPの半分以上（44兆ドル相当）の経済価値の創出が自然資本に依存するとの試算
- 世界経済フォーラム「グローバルリスク報告書（2025年版）」では、「今後10年間に起こり得る深刻度が大きいグローバルリスク」として、「2位 生物多様性の損失と生態系の崩壊」、「4位 天然資源の危機」が挙げられ、自然関連リスクの深刻度が認識されている。

世界総GDPの半数以上（約44兆ドル）が自然資本に依存

自然資本とは、人々に一連の便益をもたらす再生可能および再生可能な天然資源（例：植物、動物、水、土、鉱物）のストック

（出典：Atkinson and Pearce 1995; Jansson et al 1994、引用：自然資本コアリジョン 2016、www.naturalcapitalcoalition.org/protocol）

10年後のリスクの深刻度のランク付け

1	異常気象	気候変動に加え、生物多様性・生態系・天然資源関連リスクが上位
2	生物多様性損失及び生態系の崩壊	
3	地球システムの危機的変化	
4	天然資源不足	
5	誤情報及び偽情報	
6	AI技術がもたらす悪影響	
7	格差	
8	社会の二極化	
9	サイバー謀報活動及びサイバー戦争	
10	汚染	

凡例：リスク区分
環境
技術
社会
経済
地政学

出典：世界経済フォーラム(2025)Global Risk reportを基に作成

5

生物多様性条約

- 2022年第15回生物多様性条約締約国会議で採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」では、2030年ミッションとして「ネイチャーポジティブ（自然の再興）」の考え方が示された。
- 「陸と海のそれぞれ少なくとも30%を保護地域及びOECMにより保全（30by30）」「事業者が、生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存や影響を評価・開示し、持続可能な消費のために必要な情報を提供するための措置を講じる」ことなどの2・3のターゲットが位置づけ。

2030年ミッション：自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる

ターゲット2 劣化した生態系の30%の地域を効果的な回復下に置く	ターゲット3 陸と海のそれぞれ少なくとも30%を保護地域及びOECM※により保全（30 by 30目標）	ターゲット10 農業、養殖業、漁業、林業地域が持続的に管理され、生産システムの強靭性及び長期的な効率性と生産性・（略）に貢献	ターゲット15 民間企業等が生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存や影響を評価・開示
-------------------------------------	---	---	---

※OECM：保護地域以外で生物多様性保全に資する地域（Other Effective area-based Conservation Measures）

6

森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針

7

森林の有する多面的機能について

森林の有する多面的機能の発揮を通じて、国民生活に様々な恩恵をもたらしている



森林の多面的機能は、一部の貨幣評価できるものだけでも年間70兆円。

8

健全な森林を維持するための多様な森林づくり

【森林・林業基本計画】(令和3年閣議決定)

森林の有する多面的機能の発揮に関する目標
将来にわたり多面的機能を発揮していくためには、森林の現況、自然条件、地域の経済社会の要請等を踏まえながら、人為的な整備及び保全により多様な森林へと誘導していく必要

流域レベルでの多様な森林の配置のイメージ



9

「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」の概要

- 外部有識者9名からなる「生物多様性保全に資する森林管理のあり方に関する検討会」において、森林における生物多様性の課題を整理するとともに、これまで明確化されてこなかった生物多様性を高めるための林業経営のあり方について議論
- 令和6年3月「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」策定・公表（令和7年3月改定）

目的：生物多様性の保全に一層配慮した森林管理を通じた林業経営のあり方を明確化

対象：林業生産活動を通じた経営管理が一定程度行われてきた森林（人工林）

対象者：森林所有者、森林組合、林業事業体等（+森林における生物多様性保全活動を行う団体等）

生物多様性を高める林業経営に取り組む意義：

①生物多様性を高める林業は「生態系サービス*」の発揮に貢献



②民間企業との連携による生物多様性保全は林業経営の新たな収益機会を創出



10

森林の生物多様性を高めるための森林管理手法

(指針: P13-15参照)

(ア) 多種多様な森林の配置 (面的な管理)

- 一定の面的広がりにおいて、様々な樹種、林分構造、林齢などから構成される森林をバランスよく配置することが重要
⇒ 市町村森林整備計画に定めるゾーニング等を踏まえた目標林型の設定
- 多様な生物の生育・生息地を維持するためには、森林の連結性を維持することが重要
⇒ 伐採等の施業では人工林周辺の天然林等や、溪流沿いや尾根筋の森林を保残



様々な森林タイプがモザイク状に配置された景観
(北海道大学大学院農学研究院, 2016)

11

11

(参考) 「森林経営計画」への生物多様性を高める取組の記載

- ・「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」を踏まえ、生物多様性保全の取組に係るPDCAサイクルの実施を森林経営計画の作成を通して行なうことができるよう、令和7年3月に計画書の様式を見直し。
 - ・「森林の経営に関する長期の方針」の一部として、別紙様式「森林の生物多様性を高めるための取組」を新たに位置づけ、生物多様性を高めるための活動やそのモニタリング手法を任意に記載することができる。



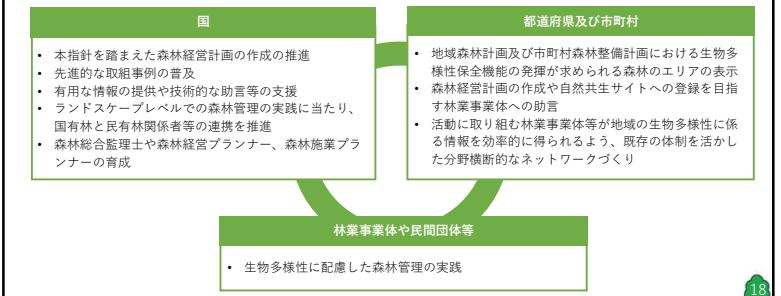
16

「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」に基づく取組の普及

□ 各種制度との連携

- ・森林経営計画において「森林の生物多様性を高めるための取組」を新たに位置づけ
 - ・森林環境保全整備事業の実施要領のなかで、森林環境保全直接支援事業及び特定機能回復事業に係る特記事項として、当指針に基づき、森林の生物多様性保全に資する取組の推進に努めることを記載
 - ・地域生物多様性増進法の基本方針では、生物多様性増進活動の実施に当たり、当指針を参考に取り組むことが望ましいことを記載

□国・都道府県・市町村の連携による取組の推進例



18

(参考) 地域生物多様性増進活動促進法（自然共生サイト）

- 企業や民間団体等が、里地里山の保全、外来生物の防除、希少種の保護といった生物多様性の維持・回復・創出に資する「増進活動実施計画」を作成し、主務大臣（環境・農林水産・国土交通大臣）が認定
 - 市町村がとりまとめ役として地域の多様な主体と連携して行う活動は「連携増進活動実施計画」として主務大臣が認定
 - 認定を受けた者は、その活動内容に応じて、森林法等における手続きのワンストップ化・簡素化などの特例の活用が可能
 - 認定を受けた企業等は情報開示等にも活用



- ・主務大臣（環境大臣、農林水産大臣、国土交通大臣）は、地域生物多様性増進活動の促進に関する基本的な方針を定めるものとすること。
- ・基本方針には、地域生物多様性増進活動の促進の意義、計画作成の基本的事項、農林漁業に係る生産活動との調和その他の配慮すべき事項等を記載する。
- ・基本方針は、生物多様性基本法の生物多様性国家戦略のほか、森林法、みどりの食料システム法、都市緑地法の計画等との調和が保たれたものでなければならぬものとする。

7

(参考) 全国森林計画 (令和5年10月閣議決定)

口 生物多样性保全措施

全ての森林は多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与している。このことを踏まえ、森林生態系の不確実性を踏まえた順応的管理の考え方に基づき、時間軸を通して適度な擾乱により常に変化しながらも、一定の広がりにおいてその土地固有の自然条件等に適した**様々な生育段階や樹種から構成される森林**が**バランス良く配置**されていることを目指す。

とりわけ、原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林などの属地的に機能の発揮が求められる森林については、生物多様性保全機能の維持増進を図る森林として保全する。また、野生生物のための回廊の確保にも配慮した適切な保全を推進する。

9

道有林における保持林業/北海道・北海道立総合研究機構林業試験場
北海道大学農学部森林科学科、森林総合研究所北海道支所

ねらい

- 生物多様性のために重要な大径木や老齢木を長期的に維持する「保持林業」の生態学的・経済的な効果の実証
- 伐採作業にかかる費用をほとんど増加させることなく生物多様性の向上が可能
- 保持林業によって木材生産性を維持しながら生物多様性を確保できる

【保持林業とは】

- 主伐時に一部の樹木を残すことごと、多様な生物の生息地としての機能を維持し、有益の機能を高めるための施業方法
- 木を残せば少なくとも木材生産性は低下するため、実施する森林に求められる木材生産性と生物多様性のバランスをとれる施業方法を見つける必要がある

【森林の概況】

- 北海道有林空知管理区約6,000ha
- 人工林3,505ha（うちドマツ78.3%）、人工林内にも一部広葉樹が生育している
- 森林の98%が水源涵養もしくは土砂流出防備の保土林に指定

【実証実験の概要】

- 人工林内の広葉樹を1haあたり約10本、50本および100本を保持して残りを伐採する単木保持の施業を実施
- 保持する木は針葉樹に比べて安価な広葉樹であるため、経済的損失を抑えることができる
- 広葉樹を保持しても、伐採作業にかかる費用はほとんど変わらない
- 広葉樹を20~30本/ha程度保持することで、伐採後の鳥類の個体数減少を大きく抑制

➡人工林内の広葉樹を一部保持することで、木材生産性を大きく損なうことなく生物多様性の維持が可能

参考URL 保持林業実証実験プロジェクトの概要: <https://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/refresh/abstract/abstract.html>

24

企業主導で森林・水源・生物多様性を再生する/サントリーホールディングス（株）

ねらい

- サントリーホールディングスの製品は良質な地下水 = 天然水を原料に製造。天然水は事業活動の生命線
- 「サントリーナチュラル水の森」を「水の持続可能性（サステナビリティ）」を支える基幹事業と位置付け、良質な水資源を守るために水源林とその周辺における地下水源涵養活動を行う
- 科学的根拠にのっとった水源涵養林の整備を行う

【森林の概況】

- 森林の面積: 全国で約12,000ha (22か所)
- （工場で汲み上げている地下水の2倍を森で育むという目標を十分以上に達成）
- 森林整備の目標
- 水源涵養林としての高い機能を持った森林
- 生物多様性に富んだ森林
- 洪水・土砂災害に強い森林
- CO₂吸収力の高い森林
- 豊かな自然と触れ合える美しい森林

【取り組みの概要】

- 植物の多様性調査を実施し、地域の生態系に基づいた森林整備の方向を決定。
- それぞれの地域、森林に適した森づくり（針広混交林化、明るい里山の再生、鹿の採食対策、放牧・拡大竹林の整備、地域性苗木の生産と植樹、湿原の再生、草原の再生等）。
- 多様な動植物、多様な土壤生物を保護再生し、災害に強く、水源涵養力の高い森に誘導。
- 防護柵の設置により鹿の採食から種の多様性を保護。柵の外では不嗜好性植物により地表を被覆し、土壤流出を防止。
- タガ、フクロウなどのアンブレラ種の保全、苔類の支援など

➡ Nature positive = Water positive
➡ 生物多様性・生態系を再生し、水源涵養力の高い森に誘導。

参考URL サントリーナチュラル水の森 <https://www.suntory.co.jp/eco/forest/>

25

高校生による間伐効果のモニタリング・木製品ブランド化/結の森（四万十町森林組合・コクヨ（株））

ねらい

- 昔からあった里山文化が失われつつある中、間伐材利用を通じた事業提携をしているコクヨグループと四万十町森林組合が協働し、森林再生につながる活動を開始
- 「環境と経済の好循環」を目指し、人と人、人と自然の「つながり」を結ぶことを意味する「結の森」として、森林認証の取得面積を拡大

【森林の概況】

- 総面積: 約5,430ha
- 周囲にはヒノキ原生林も存在。
- 日本最後の清流と呼ばれる四万十川が流れれる。
- 下流域の住民にとっての水源林。
- ヤロチワ（「高知県レッドデータブック」絶滅危惧ⅠA類）が確認。
- 四万十町森林組合・コクヨ（株）が連携して「結の森」を2006年4月から森林再生プロジェクトを開始。

【活動概要】

- 「環境と経済の好循環」を目指し、間伐の支援による森林保全とともに、間伐材の活用を促進するための仕組みとして、コクヨ（株）は地域材の活用を約束し、四万十町森林組合はFSC認証を取得することにより、木の新たな価値をつくり、間伐材を利用したオフィス家具などの製品のブランド化。
- 山王の負担が大きいため手入りが行き届かず放置林が増えているという現状を解決するために、木製品を販売することでコクヨ（株）が森林整備にかかる費用の一部を賛助。
- 間伐などの森林管理の効果や森林周辺環境の状態変化を把握するために、地元の高校生や企業の社員などの協力で植生調査と清流基準調査を実施。結果は毎年公表。
- 森林保全の理解を深めるための機会として、高校生にとっての貴重な機会となっている。
- コクヨ（株）は「結の森」活動を通じて高知県から「CO₂吸収証書」を取得。

➡「結の森」プロジェクトにより、持続可能な森林経営が拡大

参考URL 四万十町森林組合 <https://www.shimantohinoki.or.jp/>
コクヨ株式会社 <https://www.kokuyo.co.jp/sustainability/yui/biodiversity/>

26

企業の力で未来に繋がる森づくり/東広島市

ねらい

- 東広島市は森林のほとんどが里山でスギ・ヒノキの人工林が少なく林業地帯ではない。エネルギー革命以降、里山の利用が少なくなり、松枯れや鳥獣害等により荒廃
- 令和5年に森林づくりパートナー制度を創設。企業の森の拡充・促進
- 多様な担い手による里山の適切な整備・管理で森林の有する多面的機能の発揮

【森林の概況】

- 森林面積: 39,604ha (東広島市の面積の約6.2%)
- ほとんどが里山
- マツ65%、スギ・ヒノキ人工林は7%
- 松くじ被害による松枯れが市内各所に見られ、松枯れ後は多様な樹種に更新。

【取り組みの概要】

- 企業から、CSR（企業の社会的責任）や社会・環境活動、地域との交流活動の一環として、企業による森林環境保全に取り組みたいとの要望を受け、東広島市が企業の取組を市内で一括して推進するため、森林づくりパートナー制度を創設（令和5年4月）。
- （企業の森づくりの仕組み）
- 森林環境保全に貢献したい企業等と森林所有者等の協定締結を東広島市がコーディネート（フィールド紹介や森林所有者、森林組合との調整等）。

➡ 東広島市の里山に様々な企業がコミットし、里山の新たな価値の創出に繋がっている。

参考URL 東広島市 <https://www.city.higashihiroshima.lg.jp/soshiki/sangyo/8/5/33642.html>

27



森林



農業



水資源



生物多様性



気候変動



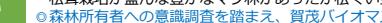
土壤



地質

ねらい

- ・地域の森林のほとんどが里山林である一方、スギ・ヒノキが少なく木材生産ができない地域。
- ・松茸栽培が盛んな豊かなマツ林があったが松くい虫被害により荒廃
- ・森林所有者への意識調査を踏まえ、賀茂バイオマスセンターの整備を契機に里山の資源と技術を総合的に活用して地域の振興・里山の再生に生かす



【森林の概況】

- ・森林面積: 39,606ha (うちスギ・ヒノキ人工林7%)
- ・豊かなマツ林があと松茸栽培が盛んだったが松くい虫被害により荒廃。
- ・森林所有者 (組合員) の意識調査では、山地前撲伐や水源涵養、温暖化対策などに森林への期待はあるものの、約9割が森林所有者に活用されおらず、散害被害などの課題があることを踏まえ、里山をアトラートマークで東広島市里山モデルの構築を目指し、バッファーリーン整備とスマーバーマの植林等による「里山再生」、6次産業化による農林業の活性化、木質バイオマス、森林整備によるCO₂の吸収による「温暖化対策」の推進を行っていくこととした。



【事業概要】

- 里山の活用に向けて、里山資源 (里山セラピー、ジンの原材料 (ネズミサシ) 、アロマ (クロモジ) 、山椒、銀杏栽培等) を見直す。
- 「賀茂バイオマスセンター」を設置し、未利用木質バイオマス資源をチップ、ペレット、薪を製造。個人・小規模で持たんない木材を取る木の駅プロジェクトによる自主的な森林整備の促進。
- 里山資源マイスター研修・緑の教室の実施による地域住民の里山活用の理解の醸成。
- 里山資源の活用
 - ・林産物の新たな利用としてネズミサシの実を使ったクラフトジン (サクラオブルリーアンディステラリー側) の商品化。
 - ・未利用広葉樹等を活用した木のおもちゃ等の開発。
- 烏黽等の課題のある荒廃した里山を農地との境界沿いに一定幅で整備し水田と山林のバッファーリーンや林産物生産林 (銀杏) を造成。



→ 里山の資源を現代の暮らしに合った活用をすることで、地域の振興・里山の再生。



28

（参考）民間企業のTNFD情報開示

29

森林の多面的機能とTNFD情報開示

- 企業活動は森林の有する多面的機能に依存・影響し、TNFD情報開示を行う上で、これらの関係性を理解することが不可欠
- 事業活動によるCO₂排出、多量の水使用、建設工事による森林開発等は、森林の多面的機能の低下を招き、資源不足、サプライチェーンの不安定化、山地災害等による事業中断、企業イメージの毀損等、企業経営にとって「リスク」につながる
- 森林の多面的機能を高める取組は、森林の多面的機能の持続的発揮につながり、企業経営の基盤である自然資本を強化し、木材や水資源等の確保によりサプライチェーンを安定化するなど「リスク」を回避・軽減するだけでなく、新たなビジネスモデル構築等にもつながり、「機会」となり得る

ビジネスモデルとバリューチェーン

事業活動 (影響の要因)	依存経路	森林の状態の変化	依存経路	森林の多面的機能の例	依存経路	森林に関するリスクと機会
▶ 木材利用 ▶ 水使用 ▶ 土地利用				▶ 水源涵養 (水資源の貯留、水質浄化等)		▶ リスクの例 ■ 資源不足 ■ サプライチェーンの不安定化 ■ 企業イメージの毀損
外部要因※ ▶ 地球温暖化 ▶ 洪水・洪水 ▶ 土砂流出 ▶ 水質汚濁 ▶ 森林開発	影響経路		影響経路	▶ 物質生産 (木材等の供給)	影響経路	▶ 機会の例 ■ 持続的な資源確保 ■ サプライチェーンの安定化 ■ 企業イメージの向上
				▶ 土砂灾害・土壌保全 (表層崩壊防止等)		

※自社以外の他社の事業活動によっても森林の状態が変化することも含む

30

TNFD開示項目と指標（全産業共通）																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ● TNFDでは、全産業共通の「グローバルコア開示指標」、産業別の「セクターコア開示指標」を提示している。 ● 全産業共通の開示指標を設定・公表することが推奨されている。ただし、産業ごとの特性が異なり、企業の体制も異なることから、この指標の全てを直ちに開示することは求められていない。 ● この場合、指標を設定・公表できない理由等を説明することが重要となる。 																																																	
<p>表「グローバルコア開示指標」</p>																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「依存と影響」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">気候変動</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● GHG排出量 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">陸／淡水／海洋利用の変化</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 総空間フットプリント ● 陸／淡水／海洋の利用変化の範囲 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">汚染／汚染除去</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table>	「依存と影響」に関する開示指標		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">気候変動</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● GHG排出量 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">陸／淡水／海洋利用の変化</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 総空間フットプリント ● 陸／淡水／海洋の利用変化の範囲 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">汚染／汚染除去</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table>	気候変動		<ul style="list-style-type: none"> ● GHG排出量 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">陸／淡水／海洋利用の変化</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 総空間フットプリント ● 陸／淡水／海洋の利用変化の範囲 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">汚染／汚染除去</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table>	陸／淡水／海洋利用の変化		<ul style="list-style-type: none"> ● 総空間フットプリント ● 陸／淡水／海洋の利用変化の範囲 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">汚染／汚染除去</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table>	汚染／汚染除去		<ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table>	資源利用／補充		<ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>		侵略的外来種等		<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table>		自然の状態		<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>	「リスクと機会」に関する開示指標		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>		リスク		<ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table>		機会		<ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 	
「依存と影響」に関する開示指標																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">気候変動</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● GHG排出量 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">陸／淡水／海洋利用の変化</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 総空間フットプリント ● 陸／淡水／海洋の利用変化の範囲 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">汚染／汚染除去</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table>	気候変動		<ul style="list-style-type: none"> ● GHG排出量 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">陸／淡水／海洋利用の変化</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 総空間フットプリント ● 陸／淡水／海洋の利用変化の範囲 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">汚染／汚染除去</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table>	陸／淡水／海洋利用の変化		<ul style="list-style-type: none"> ● 総空間フットプリント ● 陸／淡水／海洋の利用変化の範囲 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">汚染／汚染除去</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table>	汚染／汚染除去		<ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table>	資源利用／補充		<ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>		侵略的外来種等		<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table>		自然の状態		<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>	「リスクと機会」に関する開示指標		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>		リスク		<ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table>		機会		<ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 				
気候変動																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ● GHG排出量 																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">陸／淡水／海洋利用の変化</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 総空間フットプリント ● 陸／淡水／海洋の利用変化の範囲 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">汚染／汚染除去</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table>	陸／淡水／海洋利用の変化		<ul style="list-style-type: none"> ● 総空間フットプリント ● 陸／淡水／海洋の利用変化の範囲 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">汚染／汚染除去</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table>	汚染／汚染除去		<ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table>	資源利用／補充		<ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>		侵略的外来種等		<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table>		自然の状態		<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>	「リスクと機会」に関する開示指標		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>		リスク		<ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table>		機会		<ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 									
陸／淡水／海洋利用の変化																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ● 総空間フットプリント ● 陸／淡水／海洋の利用変化の範囲 																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">汚染／汚染除去</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table>	汚染／汚染除去		<ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table>	資源利用／補充		<ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>		侵略的外来種等		<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table>		自然の状態		<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>	「リスクと機会」に関する開示指標		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>		リスク		<ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table>		機会		<ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 														
汚染／汚染除去																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ● 土壤に放出された汚染物質の種類別総量 ● 雨水排出 ● 廃棄物の発生と処理 ● プラスチック汚染 ● GHG以外の大気汚染物質総量 																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">資源利用／補充</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table>	資源利用／補充		<ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>		侵略的外来種等		<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table>		自然の状態		<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>	「リスクと機会」に関する開示指標		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>		リスク		<ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table>		機会		<ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 																			
資源利用／補充																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ● 水不足の地域からの取水量と消費量 ● 陸／淡水／海洋から調達する高リスク天然一次産物の量 																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">侵略的外来種等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>		侵略的外来種等		<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table>		自然の状態		<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） 																																							
侵略的外来種等																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指數（侵略的外来種の非意図的侵入に対する対策） 																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自然の状態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） </td></tr> </tbody> </table>		自然の状態		<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） 																																													
自然の状態																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ● ブレークオーラー指標（生態系の状態、種の絶滅リスク） 																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">「リスクと機会」に関する開示指標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>	「リスクと機会」に関する開示指標		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>		リスク		<ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table>		機会		<ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 																																				
「リスクと機会」に関する開示指標																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>		リスク		<ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table>		機会		<ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 																																							
リスク																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ● 自然開拓の移行リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓の物理リスクに対して脆弱であると評価される資源、負債、収益および費用の金額（合計および合計に占める割合） ● 自然開拓のマイナスのインパクトにより当年度に発生した多額の罰金、料科、訴訟の内容と金額 																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">機会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 </td></tr> </tbody> </table>		機会		<ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 																																													
機会																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ● 開示する場合には、政府または規制当局のグリーン投資タクソノミー、あるいは第三者機関である産業界またはNGOのタクソノミーを参照し、機会の種類別に、自然開拓の機会に向けて展開された資本支出、資金調達または投資額 																																																	

31

木材利用とTNFD情報開示

- 世界では土地の転用や違法伐採などによる森林減少が自然劣化の大きな要因となっており、TNFD情報開示では、「持続可能な管理計画または認証プログラムのもとで調達された木材・木製品の量」の開示が求められる。
- 違法伐採は、森林減少を引き起こすほか、地球温暖化防止や公正な木材市場の形成に悪影響を与えるおそれがあることから、クリーンウッド法に基づく合法性確認木材であることが重要
- 森林經營計画対象森林※やSGEC/PEFC、FSCなどの認証材は、「合法性確認木材」かつ「持続可能な森林經營由來の木材」となり得る。
- 森林の保護を目的とした森林法に基づく森林經營計画制度や保安林制度等により伐採後の更新が担保されることを確認できるものにあっては、持続可能な森林から生産されたものであることを確認できる。
- 国産材は、森林減少のリスクはほぼなく、低リスクと評価されている。

参考

EUDR※では、EU域内で流通する特定の品目（牛、カカオ、コーヒー、アブラヤシ、ゴム、大豆、木材の7品目とその派生製品）に関し、当該品目の生産において森林減少を引き起こしていないとの確認（森林デューデリジェンス）等を義務化される予定

※EUDR：EU森林減少防止に関する規則。EUで付与となる特定の品目を提出する事業者は、(1)森林減少フリー製品であること、(2)生産の製造費用に従って生産されていることを確認し、(3)これらを証明するデューデリジェンスステートメントを作成し、提出することが求められる。2025年12月から適用見込み。

■森林減少の要因分析（2000-2018年）

出典：FAO (2022) FRA 2020 Remote Sensing Survey

32

32

森林に関するTNFD情報開示の手引き（令和7年4月）

- 企業の経営は森林などの自然資本に依存し、また影響を与えており、その活動によっては、企業経営そのものの継続を難しくする一方で、経営リスクの回避につなげることができます。
- 2023年9月に自然資本との関わりを評価して公表する「TNFD情報開示」のフレームワークが示され、企業の情報開示に向けた取組が推奨されています。
- 本手引きでは、企業活動と森林との関わりを適切に分析・評価するための具体的な方法を例示し、また、森林整備・保全や木材利用等に関する先駆的な企業の取組事例を紹介します。

対象者

- 持続的な社会・経済の発展に責任を有し、経営戦略の見直しを図る全ての企業（特に、林業・製紙/リパル・木材産業、建設・不動産、飲料の各セクターを例示）

企業活動と森林の多面的機能の関わり

- 森林は、適切に管理・利用されることにより、多面的機能が発揮されることを紹介
- 企業活動は、森林の有する多面的機能に依存し、影響を及ぼす関係にあることを解説

森林分野のTNFD開示の方法

- 我が国の森林の特性を踏まえたTNFD情報開示にあたっての基本的な考え方を提示
 - (1)流域等の視点で一帯の生物多様性を高めること、(2)持続的な森林經營・木材利用により森林資源の保護とCO₂の吸収・固定を図ること等)
- 森林に関する依存、影響、リスク、機会を、LEAPアプローチと開示推奨項目に沿って整理（森林整備による水源涵養、再造林が担保された木材調達、木材利用による炭素貯蔵等）
- 森林の多面的機能発揮に関する企業の取組事例を紹介（ランドスケープアプローチ・森林資源の保護・地域の木材利用等）
- TNFD提言に沿った情報開示にあたっての留意事項やツール等を紹介

サステナビリティファイナンスの動向

- TNFD開示情報に関する金融機関や投資家の取組事例を紹介（企業情報開示に対する評価状況等）

五十音順、敬称略。2023年3月現在

氏名	職名
角田 恵里	一般社団法人CDP Worldwide-Japan シニアマネージャー
佐々木 太郎	全国森林組合連合会 参事 兼 総務部長
土屋 優幸	(一財)林業経営研究所所長 (公財)日本自然保護協会 理事長 東京農業大学 名誉教授
原口 真	MSCアドバイザリーグループ アーバンアンドアラウンド スマートナリティ推進部 TNFD責任SVP
藤田 香	日経SGSニアエティマー 東北大クライニ・未来創造機構・大学院 生命科学研究所教授
三輪 隆	株式会社竹中工務店 技術研究所リサーチフェロー

33

33

（参考）民間企業の森林への参画

- 多様なセクターの企業と、自治体や林業事業体等とが連携し、地域を単位とした資源の循環利用、ネイチャーポジティブの取組が広がっている

地域材を活用した資源の循環利用

- 良品計画は、2023年5月に農林水産省と木材利用拡大に関する5年間の協定を締結。
- 山と企業、山と生活者のつながりで持続可能な「感じ良いくらんど社会」の実現を目指して、国産材の利用を推進。

木造店舗

企業版ふるさと納税を通じたネイチャーポジティブへの貢献

- 三愛地所株式会社、群馬県みなかみ町、公益財団法人日本自然保護協会の3者で、10年間の連携協定を締結。
- 企業版ふるさと納税を活用し、三愛地所株式会社から協定期間に内に7億円の資金提供を受け、森林整備・森林再生・木材活用の推進等の環境・生物多様性保全活動などのネイチャーポジティブ活動を推進。

出典：自然保護協会 <https://www.nacj.or.jp/partner/2024/06/40725/>

34

34

まとめ

- 森林における生物多様性を高める活動は、ネイチャーポジティブの実現に向けて一層重要なとなっています。
- 様々な主体が森林の生物多様性保全に関わる動きが見られています。
- 既に多くの林業現場で行われている「生物多様性を高める林業経営」を、森林經營計画の作成等により「見える化」することで、その意義、生物多様性保全への貢献が評価されるような仕組みができることがあります。
- 生物多様性に配慮した森林施業を実践することで、生態系サービスの発揮に貢献しながら、民間企業等との連携によって新たな収益機会の創出につながるなど、新たなビジネスチャンスにもなり得ます。
- 多くの現場において、森林管理を通じて、生物多様性を高める取組を進めることが重要です。

林野庁HP
森林の生物多様性

35

35